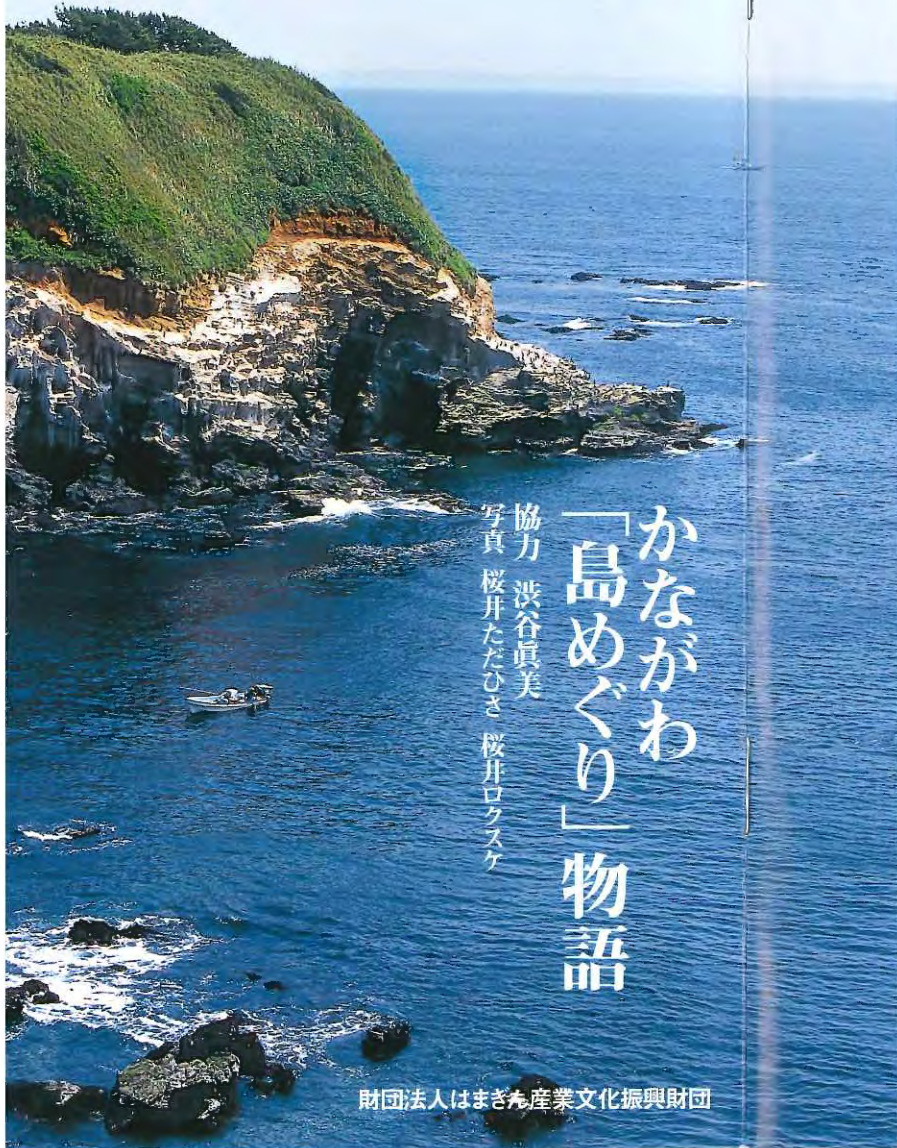


# マイウェイ

No.60  
2006



## かながわ 「島めぐり」物語

協力 渋谷真美  
写真 桜井ただひさ 桜井ロクスケ

財団法人はまぎん産業文化振興財団

平成18年6月発行 ● 発行人 小川 晃 ● 編集人 清水照雄 ● 発行 財団法人はまぎん産業文化振興財団 〒220-8611 横浜市西区みなとみらい3-1-1 ☎045-725-2171 (直通) ㈱西北社 大日本印刷㈱





かながわ「島めぐり」物語  
歴史と伝説をたずねながら自然の造形美を堪能する、とっておきの島めぐり。

表紙／城ヶ島の東南部・ウミウ  
生息地。裏表紙／七里ヶ浜から  
江の島を望む。

# 江の島

藤沢市



空から見た江の島（昭和4年）。  
藤沢市図書館所蔵。

その風光の美しさから「絵の島」と書かれた緑の小島は、  
伝説と信仰の島から大レジャーランドへと変貌をとげる。

江の島は、藤沢市南東端の相模湾に浮かぶ周囲約四キロの島。島全体が「歴史跡・名勝」に指定されています。

鎌倉時代の終わり頃に作成された『江島縁起絵巻』によると、その昔、鎌倉の深沢に五つの頭をもつ龍（五頭龍）が住んでおり、山崩れや洪水を起こしては暴れまわり、里人たちを苦しめていました。

そうした時、欽明天皇十三年（五五二）四月、突然海上に雲がわき起こり、天地が揺れる大地震が十日間続いたあと、雲の上に美しい天女が現れ、海中からは岩が吹き出し、これが江の島になったと伝えられています。その後、心を入れかえた龍は里人のために懸命に働いたので、天女は龍の望みを受入れて結婚し、弁財天となりました。

この頃の鎌倉付近はたびたび大地震に襲われていたことや、切り立つ断崖や露頭、海食洞による島の不思議な地形など



上／江島神社（辺津宮）。辺津宮、中津宮、奥津宮の3つの宮を総称して江島神社と呼んでいる。辺津宮はその本社で、それぞれの宮には海の守護人（女神）が祀られている。現在の社殿は昭和51年（1976）に改修されたもの。右下／江の島岩屋（御岩屋）の内部からの眺め。左左／岩屋洞窟の周囲。崖の間に入口がある。



が、江の島誕生にまつわる神秘的な伝説を生み出す要因になったのではないでしょう。島の南端にある海食洞窟の「御岩屋」は、古くから霊場とされ、修験道の役行者や弘法大師、慈覚大師、日蓮聖人、一遍上人、木食上人等々の参籠が伝えられています。また、『吾妻鏡』には、寿永元年（一一八二）、源頼朝が奥州平泉の藤原氏に対する戦勝祈願に訪れ、弁財天を勧請したことが記されています。

以来、将軍家や武士たちの信仰は弁財天に集まり、さらに江戸時代には庶民の間に信仰が広まり、江の島参詣は物見遊山を兼ねた流行となり、たいへんなにぎわいを見せました。

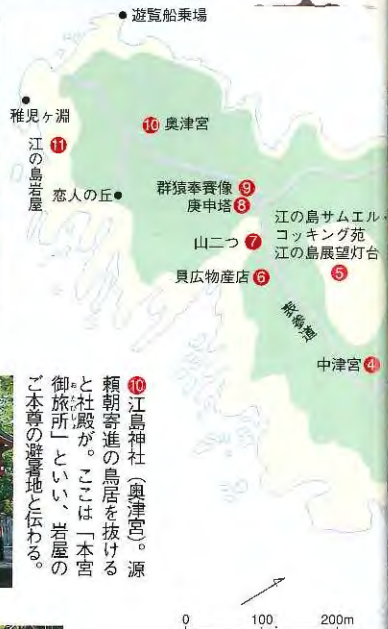


## 鳥帽子岩 (姥島)

茅ヶ崎海岸の1.5キロ沖合に浮かぶ姥島は、鳥帽子の形に似ていることから鳥帽子岩と呼ばれ、サザンオールスターズの歌で全国にも知られるようになった。写真は、江の島・裏参道からの眺め。



① 江の島岩屋。第一岩屋（152）と第二岩屋（112）からなり、洞窟内にはさまざまな文化遺産が展示されている。



⑩ 江島神社（奥津宮）。源頼朝寄進の鳥居を抜けると社殿が。ここは「本宮御旅所」といし、岩屋の本尊の避暑地と伝わる。



⑧ ⑨ 奥津宮へ向かう道の脇に「群猿奉養像庚申塔」（市指定重要文化財）が建つ。石面に36匹の猿が彫られている。

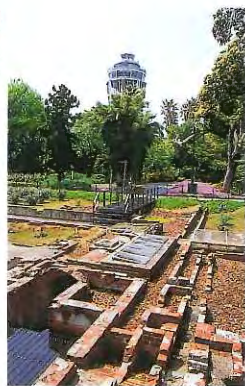


⑦ 「山二つ」から南方向を眺める。

上ノ腕足類の一種ミドリシヤミセンガイ。大森貝塚の発見者として知られるモースは、明治初めに腕足類の研究のために来島。当時は磯辺でたくさん採れた。下ノ世界貝の博物館・貝広物産店。



⑤ 江の島サムエル・コッキング苑。明治前期にこの地に庭園を築いた貿易商コッキングに因んだ庭園。当時の遺構も設置。写真奥は江の島展望灯台。



江の島展望灯台（高さ59.8m）から江の島弁天橋①、藤沢市街地を眺める。



江の島弁天橋を渡ると正面に青銅の鳥居があります。ここから参道の商店街を抜けて、中津宮・奥津宮を経て、江の島岩屋へと向かう表参道のコースと、辺津宮の入口から島の西側を通り抜ける裏参道のコースがあります。また、青銅の鳥居から左に折れると、島の人々の暮らしを支える商店街に出ます。なお、島内には四基の屋外エスカレーター（江の島エスカ）が設置されています。



上ノ② 江の島の入口付近。文政4年（1821）に再建された「青銅の鳥居」（市指定重要文化財）が建っている。  
下ノ③ 旧岩本院岩本樓。岩本院は本宮岩屋をつかさどった白緒ある院。



④ 江島神社（中津宮）。現在の社殿は元禄2年（1689）に再建し、平成8年に大改造。島内のあちこちに猫がいる。



■ 小田急線片瀬江ノ島駅下車徒歩15分、江ノ島電鉄江ノ島駅、湘南モノレール江の島駅下車徒歩20分。  
■ 藤沢市観光協会 ☎0466-24-4141



# 江戸時代の江の島弁財天信仰

藤沢市文化財保護委員会委員 渋谷眞美



江島神社の俵弁財天。八臂弁財天とともに奉安殿に安置されている。藤沢市文書館提供。



昭和40年頃の江島神社（辺津宮）。島内にある3つの宮の本社で、境内に奉安殿（写真奥）がある。藤沢市文書館提供。

江戸時代の江の島には、本宮（岩屋）の岩本院、上之宮（現中津宮）の上之坊下之宮（現辺津宮）の下之坊がそれぞれ参詣案内や参詣者の食事・宿泊の世話、近隣へお札を配り歩くなどの「御師」の活動を通じて、弁財天信仰の普及に務めていました。

江の島の祭礼は「新編相模国風土記稿」によれば、毎年四月巳の日と十月亥の日迄、本宮石屋弁財天を本宮旅所（現奥津宮）に遷座させる例祭と、巳年と亥年の六年ごとに本宮石屋、次の六年後上之宮

その次は下之宮と各弁財天を百日間開帳していました。さらに江戸では本宮石屋八臂弁財天の開帳が、延宝九年（一六八二）於浅草第六天社・文政二年（一八一九）於深川永代寺・安政三年（一八五六）於深川八幡と三回開催されました。この時岩本院の霊宝（江嶋縁起五巻・弘法大師作石像大黒天一体・遊行一遍上人筆成就水額）などや將軍家より寄進された御紋付戸帳・御幕も同時に開帳されていました。

江戸の開帳は本来岩本院の修復再建

費を集めることが目的でしたが、それよりも同じ頃江の島弁財天の開帳を題材にした浮世絵版画が数多く出回り始めたこともあり、江の島参詣を推奨するという宣伝効果は非常に大きかったようです。江戸時代中頃になると、交通網は整備され、経済的に豊かになった庶民は「講」というグループを組んで行楽気分さながら江の島へ出かけるようになりました。弁財天信仰も無病息災・家内安全・開運・金運のご利益を招き、今の私達と変わらない素朴な願いを叶えてくれる弁財天として、また技芸・音楽の弁財天として歌舞伎や常磐津・清元等音曲の各社中の厚い信仰の的となりました。

現在、江の島の入口にある文政四年（一八二二）に再建された江島神社「青銅鳥居」には、石の基壇の上に波に亀の装飾金具が巻かれ、江戸をはじめ関東各地（八王子・上総・常陸）からの願主・世話人の名が二百五十名程記されています。中には新吉原松葉屋の花魁の名も見受けられます。その他、島内には塔の下方に数頭の龍が巻きつき、側面に鳥帽子姿で踊り、曲芸する猿達が描かれている「群猿奉賽像の庚申供養塔」、歌舞伎の江戸堺町中村座寄進の石灯笼、八丁堀百味講の常夜灯、大百味講中の常夜灯も残されており、江の島弁財天信仰が江戸の庶民に深く親しまれたことがうかがわれます。



古写真でたどる

# 明治・大正・昭和の江の島

幕末から明治の江の島は、開港場・横浜に隣接する観光名所として、世界で紹介されはじめ、多くの外国人が訪れました。さらに、明治の末に江ノ電が開通すると、湘南の海の行楽地として人気を集めるようになります。

写真提供：藤本正文書館



上/明治初期の江の島。橋が架かっておらず、潮が満ちてくると人足の背負いで島に渡った。下/壱天島(明治43年)。現在は陸化して姿を変えている。



上/開業初期の江ノ電(明治末)。江ノ電は明治35年に藤沢・片瀬間に開通し、明治43年に全面開通した。下/明治40年~大正7年に刊行された名所絵はがき。



稚児ヶ淵(明治40年~大正7年)。稚児ヶ淵の名は、鎌倉相承院の稚児白菊がこの淵で身を投げたことに由来している。



江の島棧橋(昭和5年)。江の島に木の橋が架かったのは明治24年。現在の江の島弁天橋は昭和39年に造られたもの。



Torii at Yamashima 江島ノ口入(原名島ノ江)

江の島入口(昭和初期~10年代)。「青銅の鳥居」をくぐると土産物屋が並び参道がある。その道幅は現在も変わらないという。



稚児ヶ淵から富士山を眺望(昭和初期~10年代)。

右/江島神社祭礼の海中渡御(昭和初期~10年代)。左/参道の土産物店(昭和48年)。江の島入口の参道か。現在と変わらない風景だ。





# 和賀江島

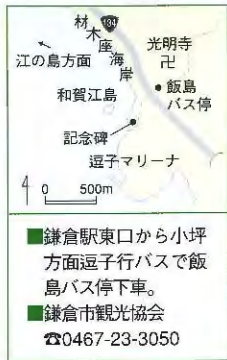
鎌倉市

材木座海岸の沖合に造られた  
わが国最古の築港遺跡。

かつて材木座海岸は鎌倉の海の  
玄関口としてにぎわいを見せてい  
ました。しかし、遠浅のため船の  
荷物の積み下ろしには不向きで、  
風波の高い時には転覆する船も多  
く、これを見かねた阿弥陀仏と



材木座海岸の南端に碑があり、沖合に  
わずかに島影が見える。



いう僧が、鎌倉幕府の執権・北条  
泰時に進言し、貞永元年（一二三  
二）七月、飯島崎の沖合に約三週  
間で造成。江戸時代末期まで使用  
されていましたが、その後崩壊し、  
今では干潮時になると海面に姿を  
現し、わずかに往時の面影を伝え  
ています。（国指定史跡）

# 野島・八景島

横浜市

展望台からの眺めは、  
まさに現代の「八景」。

野島は平潟湾口に位置する小島  
で、その昔「野島の夕照」として  
風光を讃えられた金沢八景の一つ。  
もともとは離れ小島で、乙舩海岸  
（現在の海の公園）の砂州が伸び  
て陸続きになったもの。海拔五〇  
メートルの山沿いの一角には縄文時代早



上／海拔57メートルの展望台か  
ら眺めた八景島。その左  
側が海の公園。下／野島  
公園の展望台。

期の貝塚（野島貝塚）があります。  
現在は約一九万平方メートルの総合公園  
になっており、展望台からのパノ  
ラマの景観は壮観です。対岸には、  
八景島シーパラダイスで知られる  
面積二四万平方メートルの人工島・八景  
島があります。



# 猿島

横須賀市

横須賀沖に浮かぶ東京湾に唯一残された自然島は、  
切り通しの石壁と煉瓦積みとのトンネルが美しい要塞の島。

猿島は、三笠棧橋から一・七キロ沖  
合に浮かぶ東京湾で唯一自然林のある無  
人島です。周囲一・六キロ、かつては  
豊島と呼ばれていましたが、鎌倉時代の  
建長五年（一二五三）、上総（現在の千  
葉県中部）から鎌倉へ船出した日蓮聖人  
が嵐に遭い、沈没寸前のところを一匹の  
白猿に助けられて、島に導かれたという  
伝説に因んで猿島と名付けられたよう  
です。  
この自然島が、軍事拠点として歴史の  
舞台の一端を担うのは幕末のこと。弘化



上／煉瓦造りのトンネル入口。  
「フランス積み」という積み方で  
造られた貴重な建築遺産。  
下／横須賀方面からの猿島。



四年（一八四七）、幕府は江戸湾防備の  
ために島の周囲に石垣を築き、大砲を据  
えつけた台座を建設。明治初期からは本  
格的な要塞としての建設が進められ、煉  
瓦造りのトンネルや倉庫、弾薬庫、居住  
施設が造られました。それ以後、第二次  
大戦に至るまで、陸海軍の要塞地帯とし  
て一般の立ち入りは禁止されてしまっ  
たが、実際には戦闘を経験することなく戦  
争が終了しました。戦後は海上公園とし  
て開放され、磯釣り、海水浴、自然観察  
や要塞見学ツアーなどでにぎわいを見せ  
ています。なお、戦後の発掘で島内から  
多数の縄文・弥生式土器片が見つかり、  
埋蔵文化財包蔵地に指定されています。



# 猿島ウオーキングマップ

記念艦三笠を設置する三笠公園脇の発着所・三笠棧橋からおよそ10分。島に近づくと、左手にウミウの越冬地が見えます。島内では散策路に沿って、明治時代に造られた煉瓦造りの要塞や砲台跡、石積みみの遺構などを見ながら一周することができます。タブの原生林やヤブツバキ、シロタモ、ヤブニツケイなどの常緑樹が繁り、林床はシダで覆われており、亜熱帯の密林を思わせます。



①猿島棧橋に向かう定期観光船。1時間1便運航（12月～2月は、土・日・祝日のみ）。

0 50 100m



⑥昭和16年に造られた高角砲座跡。フランス製の大砲（24センチ砲）が設置された。



⑦日蓮洞窟。窟内から縄文・弥生式土器、鳥獣の骨が発掘されている。



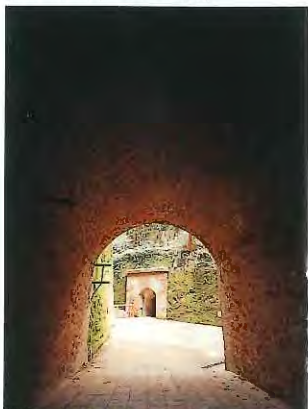
⑤上/島内には3つのトンネルがある。最も大きなものは幅4m、奥行90mあり、内部に2階建ての地下室が造られている。下/トンネルを抜けると切り通しが続く。



⑧上/ピクニック広場。浦賀水道に向いており、江戸時代に大筒15挺を配備されていたお台場跡。下/石垣が積み上げられた護岸が残る。



⑨南西部の崖に作られたウミウの越冬コロニー。10月から3月には200羽以上が集まる。崖の壁はツツノの糞で白くなっている。



④第2次大戦時に島の山頂に設けられた観測所。現在は展望台に。



■京浜急行横須賀中央駅より徒歩約15分で三笠棧橋へ。棧橋から船で約10分。  
■トライアングル三笠営業所  
☎0468-25-7144



②船着場近くの砂浜には、江戸時代の石垣（護岸）が残る。夏場は海水浴場に。



③上/露天掘りで造られた切り通しの幹道。石積みみの壁と赤煉瓦の対比が美しい。道の要所に弾薬庫や兵舎が配置されている。下/兵舎の窓。





# 城ヶ島 じょうがしま

三浦市

雄大な風景と四季折々の自然を堪能でき、文学・歴史散歩にも格好の地。



上・長津呂崎。海底で堆積した火山噴出物が何層にも重なり階段状に連なっている。下／城ヶ島灯台。明治3年8月に点灯した日本で5番目に古い洋式灯台。



安房輪灯台。昭和37年に設置された無人灯台。



州の御前社。安房崎の散策路に面した雑木の中に建ち、源頼朝が参詣したと伝わる。

城ヶ島は、三浦半島最南端の三崎港南方に浮かぶ周囲四キロほどの小島です。北原白秋の詩「城ヶ島の雨」で全国的に知られるようになりましたが、白秋は城ヶ島をモチーフ（題材）にして、他にもたぐさんの詩歌を残しています。

白秋の詩碑が建つ遊ヶ崎では、「城ヶ島さつとひろげし投網のなかに大日くるめきにけり」と歌い、「城ヶ島の燈明台にぶん廻す落日避雷針に貫かれけるかも」と灯台をモチーフに歌っています。さらに、島の東端の磯・水つ垂れについては、「水つ垂れの岩のはざまを垂る水のせうせうとして真昼なりけり」と。

また、城ヶ島は三崎の町と同様、源頼朝をはじめ、鎌倉武士ゆかりの地として伝えられるところです。遊ヶ崎、長津呂崎の御前、水つ垂れという地名にもそれが表れています。

たとえば州の御前には、頼朝が使った楊枝が地に刺さり、ジャクシンの大木になったという言い伝えがあり、水つ垂れは、頼朝がお茶や硯に使ったという湧き水があり、干ばつでも涸れることがなかったといわれます。また、頼朝が城ヶ島灯台の近くの磯辺で宴を催したときに侍女が酔ったので、この辺りが酔女ヶ原と呼ばれるようになるなど、たぐさんの頼朝伝説が残されています。



# 城ヶ島ウオーキングマップ

城ヶ島観光のモデルコースは、北原白秋の詩碑が起点。「白秋碑前」のバス停で下りて、城ヶ島大橋のたもとに建つ白秋詩碑を見学。ここから県立城ヶ島公園へと向かう東回りのコースか、城ヶ島灯台を経て、長津呂崎から馬の背洞門へ向かう西回りのコースをとるかは自由。岩場のハイキングコースは約3・3キロの道なき道。水仙の時期には丘陵伝いの水仙ロードを歩きたい。

①北原白秋「城ヶ島の雨」の詩碑。帆の形の自然石に白秋自筆の文字が刻まれている。碑の近くには白秋記念館があり、白秋の遺作や三崎時代のノートなど文芸関係の資料などを展示。無料・月曜休館。



②上／島の東端の岩礁・安房崎から三崎方面を眺める。この辺りは「州の御前」「水っ垂れ」と呼ばれる源頼朝ゆかりの場所。下／安房崎灯台。安房崎は「房総（安房）を望む岬」の意味からその名に。



③上／島の東半分広がる県立城ヶ島公園。植物の保護地区として整備され、展望台からは360度の景観が楽しめる。下／白秋門下の歌人宮終の歌碑。



上／⑩海の資料館（三浦市重要文化財）。旧三浦小学校城ヶ島分校を利用して、昔の城ヶ島の漁業に関する資料を展示。無料。木曜・日曜開館。下／⑪海南神社。



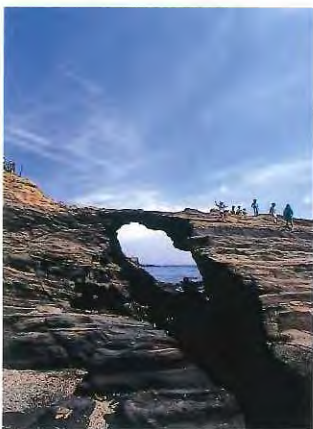
⑦城ヶ島灯台へ向かう岩場のハイキングコース。内陸部には山道コース（水仙ロード）もあり、12月下旬から2月中旬が見頃。



上／④城ヶ島公園の磯辺からウミウの生息地（県の天然記念物）を眺める。ウミウは毎年11月から翌年4月にかけて飛来する。下／⑤馬の背洞門へ向かうハイキングコース。



上／⑧干物台の向こうに長津呂崎が。千量敷の岩場は城ヶ島の変化に富んだ地層を観察する絶景ポイント。下／⑨三浦市ゆかりの俳人・田辺大愚句碑。



⑥馬の背洞門。長い年月の間に波風に浸食されくり抜かれた奇岩で、別名「メガネ岩」と呼ばれる。

■京浜急行久里浜線三崎口駅から京急バス城ヶ島行で約30分。  
■三浦市観光協会  
☎046888810588



上／一品香・福富町店。一品香は創業以来、たんめん<sup>たんめん</sup>と餃子の人気店として評判の店。中／「自家製の麺をインターネットを通じて販売していますのでよろしく!」と語る田代さん。下左／福富町店の店内。文明開化期の横浜をイメージ。下右／社長の田代信太郎さんと。下／視察先のパリで。右からオペラ座近くの教会。中華料理店と店主のダンさん。



### 魅力的な経営者との出会い

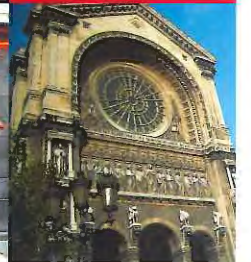
平成十六年に、(財)はまぎん産業文化振興財団主催の商業従業者海外派遣団に参加しました。八日間の日程でパリ、コブレンツ、フランクフルトを巡る視察旅行でしたが、内容が盛り沢山で、八日間があつという間に過ぎてしまいました。

振り返ってみると、参加したメンバーが皆ユニークで面白かったことや、ヨーロッパの都市の景観の美しさ、それに食事が美味しかったことなどいろいろなことが思い出されます。しかし、

海外派遣団員が語る ⑧

女性オーナーの語る「成功への強い信念」に感銘を受けました。

横浜市中区長者町 (株)一品香 田代哲也さん



とくに印象に残っているのは、視察先で出会った商店主の方たちが、それぞれしっかりと経営理念をもっておられたことですね。中でも、私が担当したパリの中華料理店の女性オーナーのダンさんは別格でした。

### 「成功は誇りにつながる」

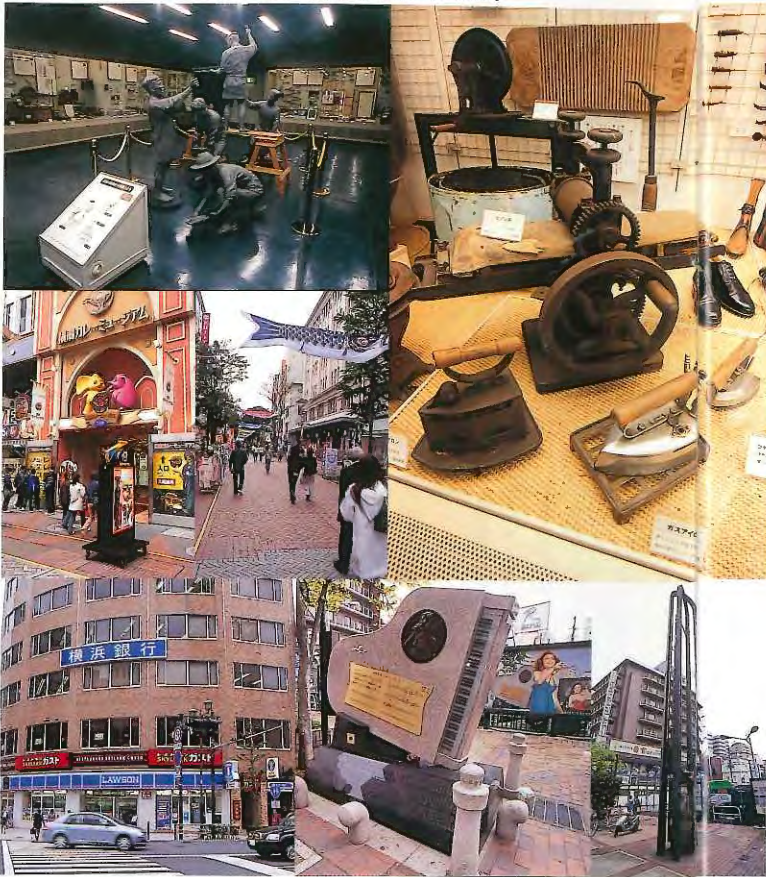
ダンさんの店は「ミシユラン」にも掲載されている有名店で、国内外の著名人も度々来店する中華料理店です。中華といってもベトナム料理をベースに、タイ料理やインドネシア料理を取り入れたオリジナルな中華で、ダンさん

んが言うには、「ここでしか食べられない料理」だそうです。酢豚、春巻、焼きそば、チャーハンなどの定番メニューにしても、味付けや具材に凝っていて、盛り付けにも工夫がある。店のインテリアも、東南アジア風のファンタスティックな雰囲気、妙に居心地がよかった。

ダンさんは、ベトナム出身の中国人です。一九八五年に移民としてパリにやって来て、独学でレストランを開いて、わずかな期間でこの店を築き上げたそうです。ほとんど無一文からのスタートで、相当の困難があつたようで



上/横浜市民文化会館1階にある「匠プラザ」(入場無料)。横浜の職人と暮らしを多角的に展示。中右/伊勢佐木町通り。中左/全国12の名店の味が楽しめる「横浜カレーミュージアム」。下右と中/オルゴールの塔「ベルタワー」と青江三奈の歌った「伊勢佐木町ブルース」の歌碑。下左/横浜銀行伊勢佐木町支店。



すが、「絶対に成功する」という強い意思と行動力をもっていました。「料理店で成功するには、ただ美味しいだけではだめです」とダンさんは言います。私も祖父の代から続く中華料理店に勤めていますから、そのくらいは分かっています。他店にないものを提供して、それでいて客を飽きさせないことが大切です、サービスや居心地のよさも求められます。しかし、分かっていて実行することは大違いで、ダンさんは、それらをすべて実行して成功させました。ですからダンさんの言葉には説得力がある。パリで

初めてカタログ注文による料理の宅配サービスを始めたのもダンさんです。

と、こんなふうに着うと、ハングリな野心家タイプを想像されるかもしれませんが、いつでも笑顔を絶やさない温かな人柄でした。そんなダンさんから、「成功は誇りにつながる」という言葉を聞いたときには、本当に魅力的な人だと思いましたね。

強い信念をもって経営したい

なんだかダンさんの話ばかりになってしまいました。考えてみれば、ダンさんが移民としてパリにやって来た

のは今の私とそう変わらない年齢、思うと、自分がいかに頼りなく感じられます。

私は今、社長でもある父が経営するチェーン店の財務、経理、設備管理などを任されていますが、ともかく出来るところからやっていくしかない。

うちは、たんめんが売りの店です。で、たんめんをベースに、商品やサービス、そして店舗を磨き続けて、新しい展望を開くことができればと思っています。そしていつか、「成功は誇りにつながる」なんて言えたら最高ですよ。(笑) (談)



田代哲也(たしろ・てつや)●昭和46年、横浜市生まれ。大学卒業後、大手保険会社に8年間勤務し、株式会社一品香に。現在、取締役開発室部長として、財務・経理・設備管理などを担当。

※(助)はまぎん産業文化振興財団では、事業の一つの柱として、平成元年より神奈川県内の商業従業者の方を対象に「神奈川県商業従業者海外派遣事業」を主催。海外の商業文化を洞察する機会を提供しております。



ホール

〈はまぎんホール ヴィアマールからのお知らせ〉  
ホール利用のご案内

ヴィアマールは、イタリア語で「船便」の意味。広く世界へつらなる文化、芸術をお届けするホールでありたいという願いをこめ、名づけました。みなとみらいに建つ横浜銀行本店ビル一階にあり、ジャンルを問わず、コンサート、講演会などにご利用いただけます。

施設概要

- ホール 客席数517席（前舞台使用時490席）
- 使用時間 9時～22時まで
- 使用料金 基本料金、技術者料金、付帯設備使用料の合計。基本料金は、1日を3区分に設定、平日1区分6万3千円。
- 休館日 月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始、5月3日～5日
- お問い合わせ・お申し込み先 ヴィアマールホール事務局（銀行営業日の10時～16時） ☎045（225）2173  
横浜市西区みなとみらい3-1-1 横浜銀行本店1階



はまぎんホール ヴィアマール



<http://www.yokohama-viamare.or.jp/>  
※「マイウェイ」へのご意見・ご要望は  
[info@yokohama-viamare.or.jp](mailto:info@yokohama-viamare.or.jp)へ  
お気軽にお寄せください。

〈はまぎんからのお知らせ〉  
「年金」電話相談サービス  
（無料）のご案内

年金制度や年金請求の手続き方法など、年金に関する疑問に、何でもお答えいたします。また、年金に関連した雇用保険制度、健康保険制度についての相談や「年金教室」のお申し込みも承ります。お気軽にお電話ください。

- 〈はまぎん〉年金デスク  
フリーダイヤル ☎0120(334)089
- 相談受付日 銀行窓口営業日
- 相談受付時間 9時～17時

編集後記

神奈川県は首都圏の一角に位置しているが、箱根や丹沢山塊、相模川や酒匂川、そして相模湾や東京湾、というように豊かな自然に恵まれています。今回の「マイウェイ」は、そのうちの「海」に因み、変化に富んだ四二六キロの海岸線に浮かぶ「島」にスポットを当ててみました。

ところで、日本に「島」がいくつあるかご存知ですか。総務庁統計局編「第四十八回 日本統計年鑑（平成十一年）」によると、何と六八五二の島があります。うち神奈川県には、都道府県順位で三十五番目に当たる二十七の島が存在しています。さて、いくつの島を思い浮かべることができるでしょうか。

神奈川県の方は、幼稚園や小学校の遠足、あるいは幼少のころに家族旅行で

一度は島を訪ねて遊んだ、良き思い出もっているに違いありません。

「島」の魅力は、何ととっても歩くことでよく分かります。生命と不思議に満ちた自然との触れ合いや、歴史と伝説、さらに文化との出会いを求め、また、精神的な安らぎを求めて、さあ、心地よい汗をかきながら歩いてみませんか。ともかくにも、行って、見て、感じて、思わぬ発見をしていただければ幸いです。

最後になりましたが、ご協力頂きました渋谷眞美氏をはじめ、関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。

財団法人はまぎん産業文化振興財団  
事務局次長 鈴木義久

●次号予告 9月下旬刊行  
「幕末・明治 横浜写真物語語（仮）」